

第8章

教員の日常生活

- 第1節 学校で過ごしている時間
- 第2節 家庭での生活時間
(直井 多美子)

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

資料編



第1節

学校で過ごしている時間

小・中学校ともに教員の退勤時刻が遅くなっており、学校にいる時間も増加傾向にある。また、学校にいる時間は、教職経験年数が短いほど長く、性別では女性より男性で長い。

【Q3-A～C(教員)】

2006年に全国規模としては約40年ぶりとなる教員の勤務実態についての調査が行われ、小・中学校教員の残業時間や持ち帰り時間の多さが話題となった。とりわけ中学校教員では、勤務日1日あたりの残業時間（夏季休業期を除く）は2時間強に達している（東京大学『教員勤務実態調査（小・中学校）報告書』2007）。

ところで、この10年間、あるいは5年間で教員の生活時間はどのように変化したのだろうか。本節では教員の日常生活について、1日の時間の使い方からその特徴を描いてみよう。はじめに学校で過ごしている時間についてみていく。

1) 小・中学校ともに教員の退勤時刻が遅くなっている

まず、出勤時刻についてみてみよう。経年比較可能な中学校教員について変化をみると、出勤時刻が早まっていることがわかる（図8-1-1）。97年調査と比べて、「1時間前ごろ」「それ以上前」の回答が増加し、平均時刻は始業時刻の38.4分前と97年調査から約10分早まっている。

次に、退勤時刻の変化をみると、教員の退勤時刻が遅くなっていることがわかる（図8-1-2）。退勤時刻を経年比較すると、小学校教員では98年調査、02年調査においては「6時ごろ」

の回答がもっとも多かったが、07年調査では「7時ごろ」になった。退勤の平均時刻は、98年調査が6時10分、02年調査が6時29分、07年調査が6時53分、と約10年間で43分遅くなっている。

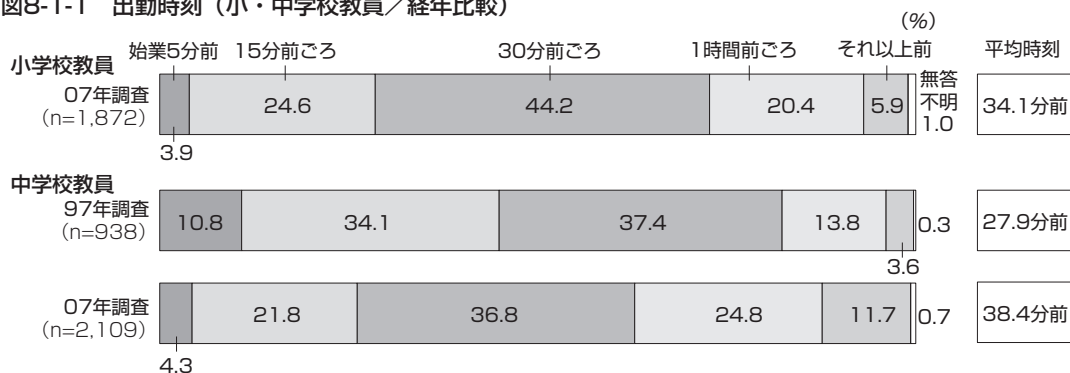
他方、中学校教員においては、「8時ごろ」「8時半ごろ」の回答が増加した。97年調査では「8時ごろ」以降（「8時ごろ」+「8時半以降」の%）の回答は16.3%と2割に満たなかったのに対して、07年調査では39.6%と約4割に達した。退勤の平均時刻は、97年調査の6時45分から、07年調査の7時25分と40分遅くなった。

全体として、教員が学校にいる時間が長くなっている様子がうかがえ、教員の多忙化を裏づける結果となった。

2) 教材研究等の時間は「1時間くらい」から「2時間くらい」が多数

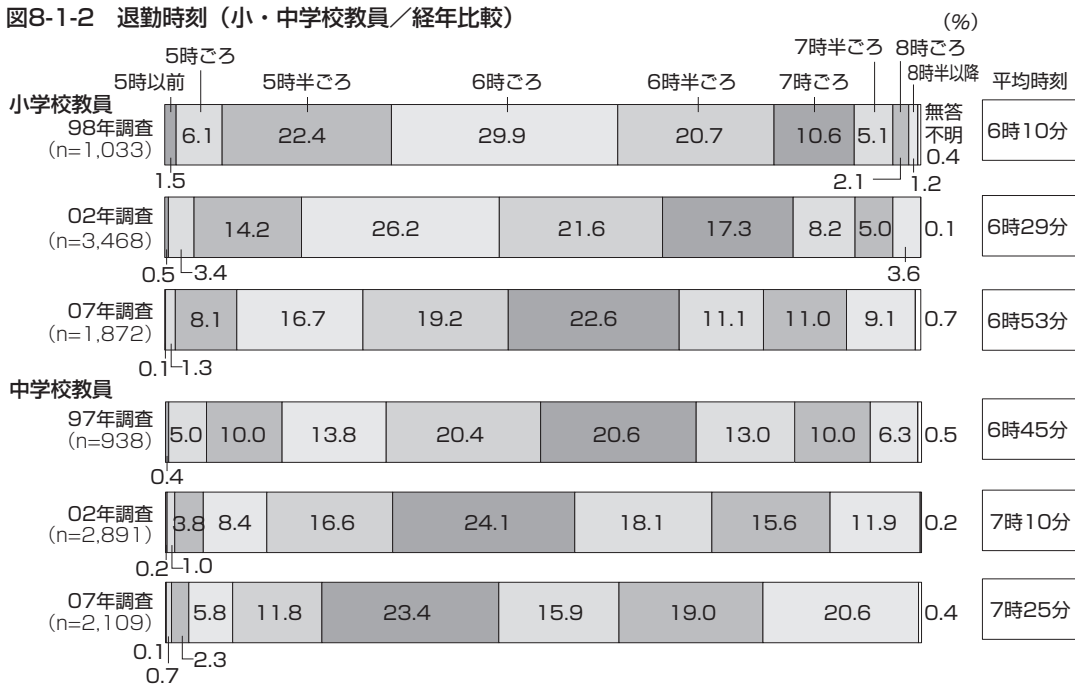
教材研究や授業準備に費やす時間（家と学校で行う時間の合計。以下、教材研究等の時間）をみていこう。なお、この項目は07年調査からたずねているため、経年比較はできない。小学校教員、中学校教員ともに「1時間くらい」「2時間くらい」「1時間半くらい」の順で回答が多く、この3つの選択肢で回答全体の約7割を占める（図8-1-3）。

図8-1-1 出勤時刻（小・中学校教員／経年比較）



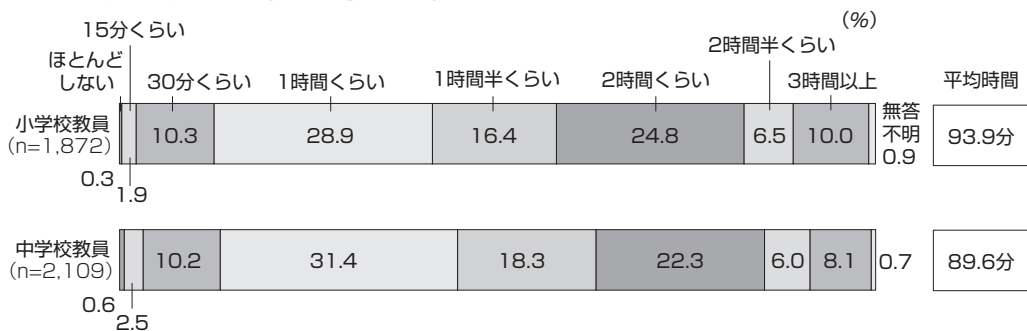
注1) 小学校の98年調査、02年調査ではたずねていない。中学校の02年調査ではたずねていない。
 注2) 平均時刻は、「始業5分前」を5分前、「それ以上前」を75分前のように置き換えて、「無答不明」を除いて算出した。

図8-1-2 退勤時刻（小・中学校教員／経年比較）



注) 平均時刻は、「5時以前」を4時30分、「8時半以降」を8時30分のように置き換えて、「無答不明」を除いて算出した。

図8-1-3 教材研究等の時間（小・中学校教員）



注) 平均時間は、「ほとんどしない」を0分、「3時間以上」を180分のように置き換えて、「無答不明」を除いて算出した。

3) 「学校にいる時間」は

教職経験年数別、性別で異なる

07年調査の結果をもとに出勤・退勤時刻、教材研究等の時間について、属性別にその特徴を概観する。まず①教職経験年数別では、経験年数の短い教員ほど、退勤時刻が遅く、教材研究等の時間も長い傾向がある。②性別では、男性が女性よりも出勤時刻が早く、退勤時刻は男性が女性よりも遅い傾向がある。

①教職経験年数の短い教員ほど

「学校にいる時間」が長い

表8-1-1は、教職経験年数別に出勤時刻、退勤時刻、教材研究等の時間の平均を算出し、始業を8時15分に仮定した上で、「学校にいる時間」(出勤時刻から退勤時刻までの時間)を求めたものである(詳しい算出方法は表の注を参照)。この表から、経験年数の短い教員ほど退勤時刻が遅く、「学校にいる時間」が長いことがわかる。

中学校教員を例にみていく。全体の平均としては始業の38.4分前(始業を8時15分とすると7時37分)に出勤して、7時25分に退勤し、「学校にいる時間」は11時間48分であった。つまり、1日の半分は学校で過ごしている計算になる。

ところが、経験年数の短い「5年目以下」の教員では、出勤は始業の44.1分前(始業を8時15分とすると7時31分)とそれほど変わらないものの、退勤は7時50分と一段と遅くなり、「学校にいる時間」は12時間19分とさらに長い。一方、教職経験が豊富な「31年目以上」の教員では、出勤が始業の30.8分前(始業を8時15分とすると7時44分)とややゆっくりしたスタートであるのに加えて退勤が6時44分と早いため、「学校にいる時間」は11時間00分と短い。

また、教材研究等の時間においても教職経験年数によって回答が大きく異なっている。教職経験年数別に平均を比べると、小学校教員では「5年目以下」が111.6分と長い、「31年目以上」を除き、経験年数が長くなるほど減少する傾向

にある。中学校教員も同様の傾向といえる。

経験年数の短い教員ほど学校に長くどまっている理由の1つに、教材研究等に費やす時間の違いがあげられる。

②男性のほうが「学校にいる時間」が長い

次に、性別による出勤時刻、退勤時刻、教材研究等の時間、学校にいる時間の特徴をみていく。

表8-1-1をみると男性の出勤時刻が女性より早いことがわかる。出勤時刻は小・中学校教員とも男性の平均が始業の約40分前、女性の平均が約30分前となっており、男性が女性よりも10分程度早い。

一方、退勤時刻は男性のほうが女性よりも遅くなっている。平均時刻を比べると、男性と女性では小学校教員では14分、中学校教員では12分の差がある。男性は女性よりやや早く出勤し、やや遅くに退勤する傾向がある。

すると必然的に「学校にいる時間」も男性のほうが長くなっている。平均時間をみると、小学校教員(男性11時間28分、女性11時間04分)、中学校教員(男性11時間56分、女性11時間34分)ともに男性が20～25分ほど学校にいる時間が長い。

教材研究等の時間の平均を比べてみると、小学校教員では男女の差はほとんどないが、中学校教員では男性が83.1分に対して女性は101.3分と20分近い開きがある。しかし、これは教職経験年数の比率において、女性が男性よりも年数の短い人が多いことによるものと考えられ、教材研究や授業準備に必要な時間は性差よりも経験の差によるものが大きいといえる。

こうした学校での勤務時間の男女の違いには、家での仕事時間は女性のほうが長いことが原因としてある(次節を参照)。なお、この傾向はすでに97年調査、98年調査でも指摘されている。男性が学校に残って仕事をするのに対して、女性は早めに切り上げてその分家庭で長めに仕事

をしている。 男性に比べて家事負担が大きいことが背景として考えられる。
 また、一般的に女性（とくに既婚の女性）は

表8-1-1 出勤時刻・退勤時刻・教材研究等の時間・学校にいる時間の平均
 (小・中学校教員/教職経験年数別・性別)

小学校教員

	全体 (n=1,872)	教職経験年数別					性別	
		5年目以下 (n=249)	6～10年目 (n=161)	11～20年目 (n=491)	21～30年目 (n=738)	31年目以上 (n=210)	男性 (n=664)	女性 (n=1,194)
出勤時刻 (始業時刻の～分前)	34.1分前	45.1分前	35.3分前	31.9分前	31.4分前	35.5分前	40.8分前	30.5分前
退勤時刻	6時53分	7時35分	7時06分	6時46分	6時44分	6時45分	7時02分	6時48分
教材研究等の時間	93.9分	111.6分	100.4分	94.1分	85.5分	97.0分	92.5分	94.7分
学校にいる時間※	11時間12分	12時間05分	11時間26分	11時間03分	11時間00分	11時間06分	11時間28分	11時間04分

中学校教員

	全体 (n=2,109)	教職経験年数別					性別	
		5年目以下 (n=336)	6～10年目 (n=238)	11～20年目 (n=610)	21～30年目 (n=800)	31年目以上 (n=113)	男性 (n=1,361)	女性 (n=742)
出勤時刻 (始業時刻の～分前)	38.4分前	44.1分前	40.0分前	36.1分前	38.4分前	30.8分前	41.9分前	32.0分前
退勤時刻	7時25分	7時50分	7時38分	7時23分	7時17分	6時44分	7時29分	7時17分
教材研究等の時間	89.6分	103.5分	92.7分	90.5分	82.3分	86.5分	83.1分	101.3分
学校にいる時間※	11時間48分	12時間19分	12時間03分	11時間44分	11時間40分	11時間00分	11時間56分	11時間34分

注1)「出勤時刻」では、「始業5分前を」5分前、「それ以上前」を75分前のように、「退勤時刻」では、「5時以前」を4時30分、「8時半以降」を8時30分のように置き換えて、「無答不明」を除いて平均を算出した。

注2) 教職経験年数別、性別のなかで、最大値に下線を引いている。

※ 「学校にいる時間」は、8時15分を始業時刻と仮定して、出勤時刻の平均から退勤時刻の平均までの時間を算出したものである。なお、「8時15分」は文部科学省の委託を受けて東京大学が実施した『教員勤務実態調査(小・中学校)報告書』(2007)を参考に定めた。

第2節

家庭での生活時間

家での仕事時間は小学校75.5分、中学校61.7分と02年調査より微減した。新聞・読書の時間は約30分と横ばい、テレビ・音楽の時間は約50分とやや減少傾向にある。睡眠時間の確保は難しく、平均で6時間を下回っている。

【Q3-D～G(教員)】

教員の家庭での生活時間はどうなっているだろうか。家での仕事時間、新聞・読書の時間、テレビ・音楽の時間、睡眠時間の変化をみていく。前節では「学校にいる時間」が長くなっていることを指摘したが、このことは家庭での生活時間にどのような影響を与えているのだろうか。

1) 家での仕事時間は小学校教員75.5分、 中学校教員61.7分

家で学校の仕事(教材研究、事務処理、児童・生徒への連絡など)に費やす時間(以下、家での仕事時間)についてたずねた。07年調査では、小・中学校教員に共通してもっとも多いのが「1時間くらい」という回答だった(図8-2-1)。

つづいて、経年での変化はどうなっているだろうか。平均時間の推移をみると、小学校教員では98年調査(63.4分)から02年調査(84.1分)にかけて急増したが、その後緩やかに減少し、07年調査では75.5分となった。中学校教員も同様に、97年調査(50.6分)から02年調査(69.8分)にかけて増えて、07年調査に61.7分と減少した。

02年調査に比べて、家での仕事時間は10分程度減ったとはいえ、前節で指摘した通勤時刻が遅くなっていること(p.113、図8-1-2参照。小学校教員24分増、中学校教員15分増)を考慮すると、学校と家への持ち帰りをあわせた総労働

時間は増加しているといえる。

2) 新聞・読書の時間は約30分、 テレビ・音楽の時間は約50分

子どもたちの活字離れが叫ばれて久しいが、教員たちは読書にどれくらい時間をかけているのだろうか。

家で、新聞を読んだり、読書したりする時間(以下、新聞・読書の時間)についてたずねたところ、「30分くらい」(小学校教員42.4%、中学校教員38.3%)がもっとも多く、約10年前の調査と回答の傾向はほとんど変化がなかった(図8-2-2)。平均時間をみても、97年調査、98年調査から07年調査にかけて横ばいであった。

次に、家で、テレビを見たり、音楽を聴いたりする時間(以下、テレビ・音楽の時間)をたずねた。「1時間くらい」(小学校教員35.7%、中学校教員37.0%)の回答がもっとも多い。一方、「ほとんどしない」と回答した人も小・中学校教員いずれも約1割いた(図8-2-3)。平均時間をみると、97年調査、98年調査から07年調査にかけて10分程度減少していることがわかった。

教員は学校にいる時間の増加にともない、テレビなどの娯楽の時間が少なくなっているようだ。教員の活字離れは進行しているとまではいえないものの、依然として新聞や本に接している時間が増えていないことは明らかである。

図8-2-1 家での仕事時間（小・中学校教員／経年比較）

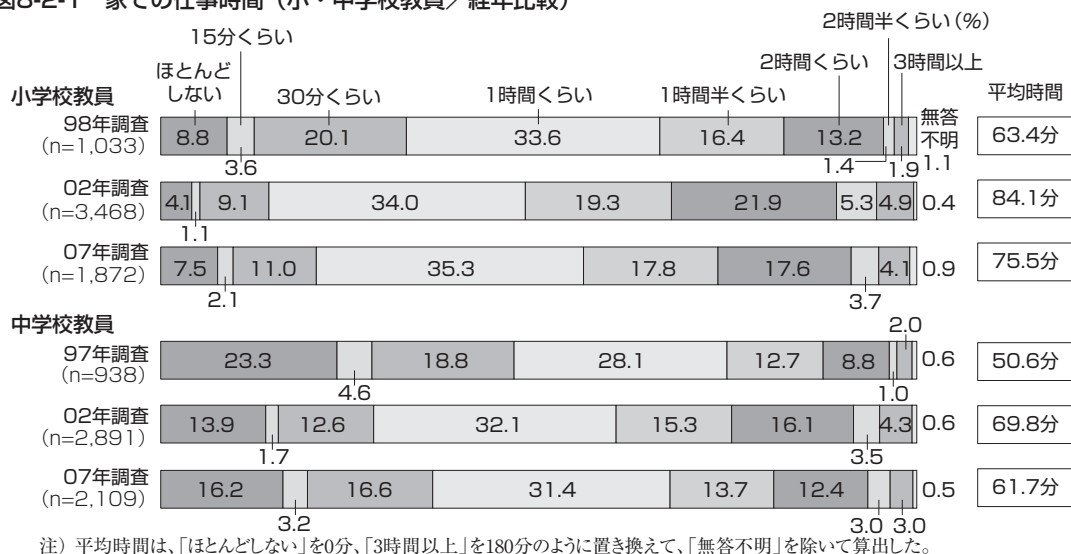


図8-2-2 新聞・読書の時間（小・中学校教員／経年比較）

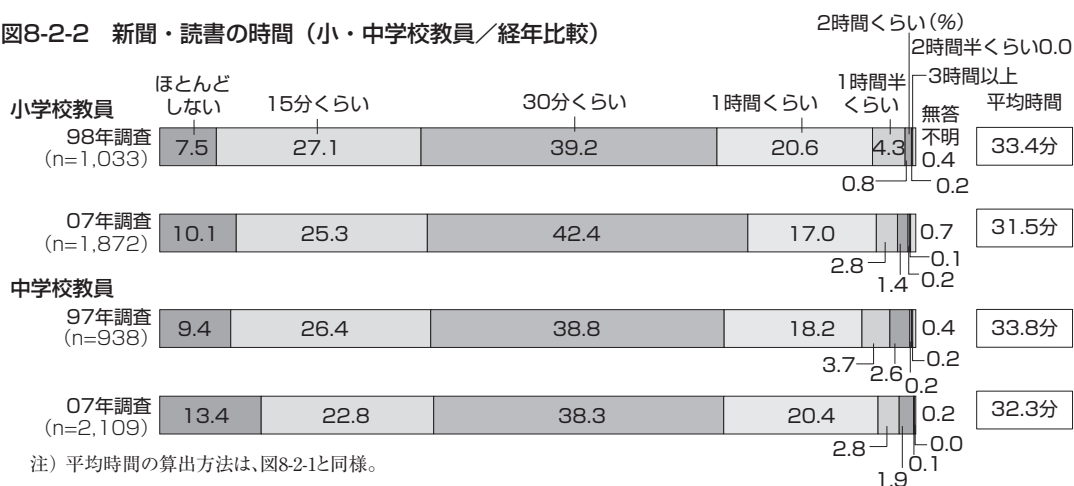
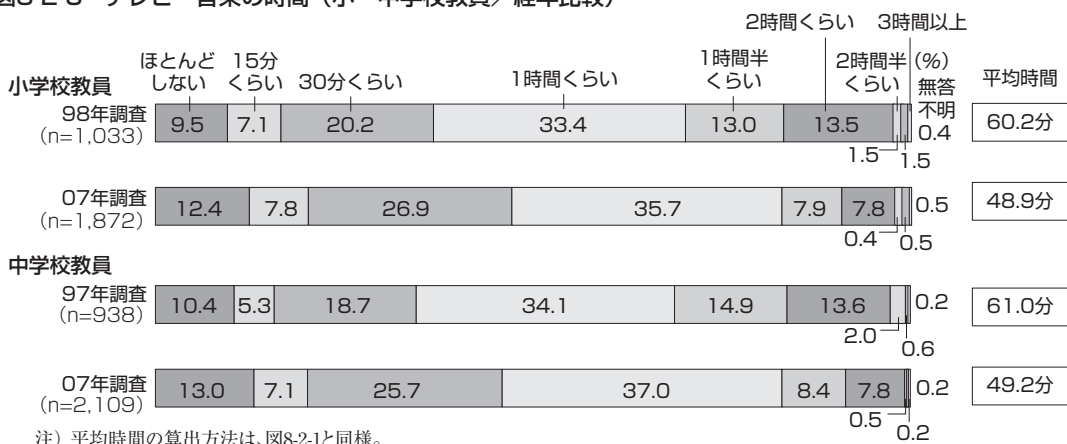


図8-2-3 テレビ・音楽の時間（小・中学校教員／経年比較）



ちなみに本調査ではインターネットやパソコンの利用時間についてはたずねていないため正確にはわからないが、こうしたICTメディアの利用がテレビなどの時間の変化と関連している可能性が考えられる。

3) 睡眠時間は短く、平均で6時間を下回る

さて、睡眠時間はどれくらい確保できているのだろうか（図8-2-4）。

経年で比較が可能なのは中学校教員のみである。97年調査では「7時間くらい」以上（「7時間くらい」+「8時間くらい」+「9時間くらい」+「10時間以上」の%）と回答した人は45.8%に達したが、07年調査では22.6%と半減し、「5時間くらい」などの回答が増えた。平均時間では、97年調査の6時間26分から07年調査の5時間57分と29分も減少している。

教員の睡眠時間の減少は、日本における全体的な傾向（減少に歯止めがかかったこと）と重ならないばかりか、平均時間が短いことが特徴である。NHK放送文化研究所が2005年に実施した「NHK国民生活時間調査」によれば、「勤め人」の平日の平均睡眠時間は7時間02分となっている。これと比べると教員の睡眠時間がいかに短いかわかる（NHK放送文化研究所『日本人の生活時間・2005—NHK国民生活時間調査』2006を参照）。

教員の仕事の多忙化が睡眠時間の減少にも影響していることが推察される。

4) 家庭での生活時間の平均

表8-2-1では、家での仕事時間、新聞・読書の時間、テレビ・音楽の時間、睡眠時間の平均時間を教職経験年数別と性別に分けて示した。

①教職経験年数別でみる家庭での生活時間

教職経験年数別による家庭での生活時間の特

徴をみてみよう。

第一に、家での仕事時間は、小学校教員ではいずれの年数でも平均で70～80分の間で、経験年数による違いはあまりみられない。中学校教員においても55～65分の間が多く、経験年数との関連は見出しにくい。

第二に、新聞・読書の時間は、経験年数が長くなるほど平均時間が長い。小学校教員では「5年目以下」27.0分に対して「31年目以上」のベテラン教員では36.2分と約10分長い。中学校教員では経験年数による差はさらに著しく、「5年目以下」と「31年目以上」では16.8分の差となっている。

第三に、テレビ・音楽の時間は小学校教員では「11～20年目」が44.9分と最も短く、「5年目以下」「31年目以上」で50分強となっている。一方、中学校教員では経験年数が長いほど、平均時間も長くなっている。

第四に、睡眠時間は、小学校教員では「11～20年目」（5時間59分）がもっとも長く、反対に「5年目以下」「31年目以上」では短くなっている。他方、中学校教員では「5年目以下」では5時間43分と全体平均を大きく割り込んでいるが、「21～30年目」「31年目以上」では6時間前後と15分以上差がある。

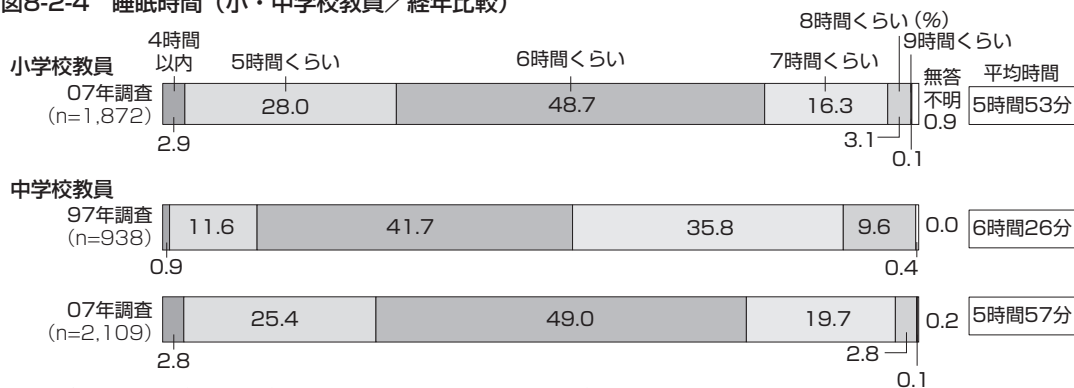
②性別でみる家庭での生活時間

つづいて、性別では家庭での生活時間に違いがでているのだろうか。

第一に、家での仕事時間は女性のほうが長い。小学校教員（男性71.5分、女性77.9分）、中学校教員（男性58.5分、女性67.5分）といずれも5～10分女性が長い。

第二に、新聞・読書の時間、テレビ・音楽の時間、睡眠時間は小・中学校教員ともに女性のほうが女性よりもやや長くなっている。

図8-2-4 睡眠時間（小・中学校教員／経年比較）



注1) 小学校の98年調査、02年調査ではたずねていない。中学校の02年調査ではたずねていない。
 注2) 平均時間は、「4時間以内」を4時間、「10時間以上」を10時間のように置き換えて、「無答不明」を除いて算出した。
 注3) 「10時間以上」は、小学校の07年調査、中学校の97年調査、07年調査のいずれにおいても0.0%だったため図から省略した。

表8-2-1 家庭での生活時間の平均（小・中学校教員／教職経験年数別・性別）

小学校教員

	全体 (n=1,872)	教職経験年数別					性別	
		5年目以下 (n=249)	6～10年目 (n=161)	11～20年目 (n=491)	21～30年目 (n=738)	31年目以上 (n=210)	男性 (n=664)	女性 (n=1,194)
家での仕事時間	75.5分	71.5分	73.0分	78.1分	74.7分	<u>79.6分</u>	71.5分	<u>77.9分</u>
新聞・読書の時間	31.5分	27.0分	26.7分	28.9分	34.5分	<u>36.2分</u>	<u>35.4分</u>	29.4分
テレビ・音楽の時間	48.9分	51.0分	51.4分	44.9分	49.1分	<u>52.9分</u>	<u>53.3分</u>	46.5分
睡眠時間	5時間53分	5時間49分	5時間52分	<u>5時間59分</u>	5時間52分	5時間48分	5時間58分	5時間50分

中学校教員

	全体 (n=2,109)	教職経験年数別					性別	
		5年目以下 (n=336)	6～10年目 (n=238)	11～20年目 (n=610)	21～30年目 (n=800)	31年目以上 (n=113)	男性 (n=1,361)	女性 (n=742)
家での仕事時間	61.7分	60.3分	56.2分	<u>65.6分</u>	60.9分	60.0分	58.5分	<u>67.5分</u>
新聞・読書の時間	32.3分	25.9分	25.0分	32.5分	35.6分	<u>42.7分</u>	<u>33.4分</u>	30.4分
テレビ・音楽の時間	49.2分	46.7分	47.0分	47.2分	51.6分	<u>55.2分</u>	<u>52.2分</u>	43.8分
睡眠時間	5時間57分	5時間43分	5時間59分	5時間58分	<u>6時間01分</u>	5時間59分	6時間02分	5時間48分

注1) 「家での仕事時間」「新聞・読書の時間」「テレビ・音楽の時間」の平均時間の算出方法は、図8-2-1と同様。
 注2) 睡眠時間の平均時間の算出方法は、図8-2-4と同様。
 注3) 教職経験年数別、性別のなかで、最大値に下線を引いている。